

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	通所支援ベルテール堀之内園		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 1日		2025年 12月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	42	(回答者数) 32
○従業者評価実施期間	2025年 12月 1日		2025年 12月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 2日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	月1回行う集団活動の内容で進学や就職に向けた活動を取り組んでいる。(身だしなみや面接練習、お金の使い方など)	新年度が始まる前に1年を通じてどのような内容を行っていくべきか話し合いを行っている。 その年の利用児童に合わせて行う内容を変えたり、伝え方を変えていく取り組みを行っている。	面接練習などは保護者の見学を行えるよう、時間などの配慮を行っているが、今後より多くの機会を保護者の方に見学に来ていただけるようにする。 またその際に保護者の方からの困りごとなどを聞き、集団活動を通じて、児童に伝えられる機会を設ける。
2	決まった支援プログラムを行い続けるのではなく、毎月新しいものを取り入れている。	1週間を通じて同じ活動を行うのではなく、曜日によって活動内容を変え、児童の興味を引く工夫を行っている。	他の園の活動など参考できるものがある際には、連携を行い取り入れていく。 活動内容の増やすことで、園に来たいと思う児童を増やす。
3	法人として取りまとめている教育セミナーに研修を受ける機会を設けられている事。	チラシなどを事前に渡し正職以外のパート職員にも参加の促しを行っている。	園で困っていることや、聞いてみたいことなどを相談し研修を受ける機会を作っていく。 保護者の方には活動記録で研修の案内を引き続き行っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	パート職員を含めた日々の療育の打ち合わせや子ども一人ひとりの相談事などを、話す機会を設けることが難しくなった。	10月より人員が不足しているため、一人ひとりの業務量が増えしまっている。 業務量が増えて、日々の療育内容や児童の様子について話す機会を作れない日がある。	一人ひとりの仕事の量の調整や報・連・相を密に行っていく。 必要な業務の洗い出しを行い、時間を有効に使っていく。 児童の変化や連絡事項などはすぐに職員間で共有できる体制作りを行っていく。
2	地域に開かれた事業運営を行うことが難しかった。	児童と一緒に参加できる企画などは放課後の時間で考えると、下校時刻が遅いため、実施が難しい現状がある。	振替休日や夏休みなどの長期休暇期間に実施できるか職員と打ち合わせをする時間を設けていく。
3	支援員から児童への遊びのアプローチの仕方に工夫が弱い。	通所する児童が中学生・高校生が多いためボードゲームで遊ぶよりも会話を求めることが多い。 そのため特定の職員に固執するしてしまうことがある。	児童ひとり一人の個性や感じ方を職員1人1人が理解して、声掛けの方法や伝え方などを職員全体で学んでいく。 実践した方法で成功したものがあつた際には、職員間で共有していく。